



暮らしを支える
NDCグラフィックス
中3 出口遼馬

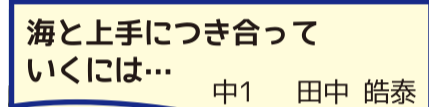
NDCグラフィックスは「気持ちの良い生活デザイン」を目指すデザイン会社です。公共のトイレのマークや横浜国際総合競技場のシンボルマーク、横浜グッツなどの商品開発のデザインにも関わりました。前社長の中川憲三さんは、「犬のフンを捨てるな」という看板自体が街の景観を乱すと言い、犬のフンを禁止するピクトグラムをデザインしました。それはシンプルだけど分かりやすいものでした。情報を可視化して伝えやすくするピクトグラムは大事です。

金江社長さんによると「アートとデザインは違い」ます。自分の創りたいもの、伝えたいことを表現するアートと違い、デザインは目的に沿って問題を解決するために創るものです。たった1つのロゴマークを創るのにもたくさんの方が関わっています。誰もが見たことのある有名なトイレのピクトグラムも、ワールドカップが行われる前に外国人でもわかるマークを目指し、認知率や理解度などを確かめる調査が繰り返され、試行錯誤の後、完成したのです。このように日常生活を支え、歴史に残るデザインを手がけているNDCグラフィックス。今回の取材を通じて、デザインが好きになりました。



みなさんは「ピクトグラム」を知っていますか。「ピクトグラム」とはトイレやエスカレーターなどをだれでもわかるようにした図記号です。「ピクトグラム」はいいアイデアが

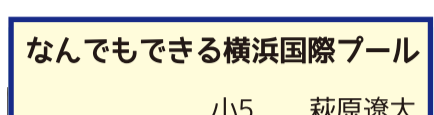
くり、なぜつくられたのでしょうか。その答えは、デザイン会社NDCグラフィックスにありました。ピクトグラムはオーストラリアの学者が絵記号で表したグラフがはじまりとされています。現代のピクトグラムの中にはなんと、このNDCグラフィックスが手がけているものがあります。前社長の中川さんはピクトグラムのことを「デザインのダイヤモンド」と言っていたそうです。「ダイヤモンド」とはたくさんの人でみがきあげたという意味です。私は今までピクトグラムを気にとめてもいませんでした。学校でピクトグラムをさがしてみました。まずはトイレ。車いすの人もありました。エレベーターや非常口マーク、階段のマークなどもありました。このようなだれにでもわかるデザインをもっと知りたいです。(2021.6.21)



みなとみらい駅のイベント広場みらいチューブで開かれていた「ヨコハマSDGs文化祭2021」取材しました。ここで上映された「マイクロプラスチック・ストーリー〜ぼくらが作る2050年」というドキュメンタリー映画を見ました。

SDGs文化祭に行って驚いたことが2つありました。1つはプラスチックの5mm以下のマイクロプラスチックが、なんと人間のうんちで確認されたことです。それも実験した8人中8人！ミジンコ等の微生物を魚が食べていき、やがて人間が食べるのです。2つ目に驚いたことは、マイクロプラスチックは海中に約51兆個もあることです。その七割ほどが陸からであり、主にポイ捨てです。僕たち人間の体の中にマイクロプラスチックがあるといやですよね？そのためにも身近な行動を少し変えることが必要です。たとえばエコバッグを持って行く、

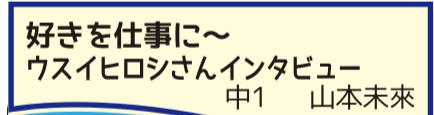
プラスチック製のスプーンやフォークをもらわない等です。みなさんも簡単なことから少しずつ始めてみてはどうですか？



※つづきジュニア編集局との合同取材でみなとみらいエリアではありませんが、オリンピック関連の取材をしました！

東京オリンピックが行われているとき、英国チームの事前練習に使われた横浜国際プールの取材に行きました。英国代表競泳のコーチをしているティムさんに話を聞きました。選手は1日6時間も練習しているそうです。そうした練習の成果で、平泳ぎのピーティ選手のコメダルなど4つのメダルをかくとくし、うれしいと話してくれました。

次に国際プール吉田館長さんにお話を聞きました。国際プールでは英国チームの事前キャンプのために5年前から準備していました。このプールは床の高さを動かして水深をかえることができると知って驚きました。さらに冬にはプロバスケットチームのアリーナに変えて使います。冬にはスポーツフロアにもなるなど、国際プールはなんでもできてすごいと思いました。(2021.7.28)

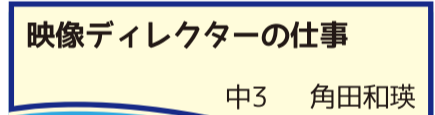


ウスイさんは多くの有名なアーティストさんと仕事をする、映像ディレクターです。ミュージックビデオやDVD、ライブ配信の映像制作などをされています。もともと音楽が好きで、大学2年で映像の

サークルに入り、映画館でアルバイトもしていました。アルバイト先では、人との出会いが運を呼び、映画の制作現場にまで行っていました。その後、就職活動がなかなかうまくいかなかったウスイさんは、大学卒業後も制作現場で経験をつみ、フリーランスで音楽関係の映像制作にたずさわるようになりました。

撮影の規模によってやり方がまったく異なったり、作品が「こんなはずじゃなかった」と作り直しになったり、発表できなくなることもあり、落ち込んで仕事をやめようかなと考えたこともあったそうです。しかし、アーティストがとて喜んでくれたり、自分の指示がうまく行き、思い描いた通りの映像になったり、ライブステージのバックスクリーンに、ステージ演出の映像を映す切り替えボタンを自分が押した瞬間、ライブ会場にどよめくほどの歓声があがったときは鳥肌がたつほど興奮したと言っていました。

「好きを極められる人は強い」「好きなものを信頼できる人たちとアウトプットすることが自分を豊かにしてくれる」とウスイさん。私も好きなものを仕事につなげていきたいとあらためて感じました。(2021.10.13)

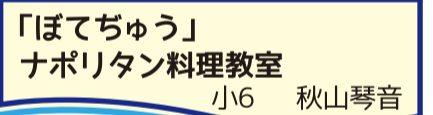


映像ディレクターのウスイヒロシさんにお話を伺いました。映像ディレクターとは、映像作品を作る際、現場で指揮をとる仕事です。ウスイさんは最初はアシスタントディレクター(AD)からはじまり、椎名林檎さんや、いきものがかり、サザンオールスターズなどの有名な方々のMV作成に関わっています。MVを撮影するときには、アーティストの意見と曲を軸に作っていくそうです。3〜5分のMVを一本作るのに、1〜2週間もかかります。多くの時間をかけていいものを作るという、姿勢はとてすごいことだと思いました。映像ディレクターという仕事のすごさ、大変さを知りました。また、それと同時に映像ディレクターの仕事をもっと知りたいと思いました。(2021.10.13)



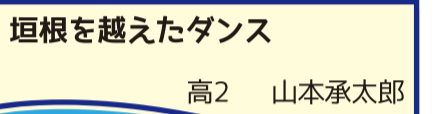
横浜ランドマーク店「ぼてちゅう」に体験取材にいき、ナポリタンの作り方を教わりました。店長さんに、お店の本物のつぼんで教えてもらいました。つぼんの温度は220度で目の前に立ってみるとすぐあつかったです。家でナポリタンを作ると、パスタがからまって食べにくかったのですが、今回教えてもらって、油でコーティングすることでからみにくくなることがわかりました。自分で作ったナポリタンを食べてみると、麺がもちもちでケチャップがからまっておいしかったです。

日本ナポリタン学会の会長さんにナポリタンについていろいろ教えてもらいました。4月29日はケチャップを作っているカゴメさんが決めたナポリタンの記念日だそうです。今回の体験取材でたくさんナポリタンについて知ることができました。(2021.10.24)



「ぼてちゅう」は、大阪発祥の鉄板で作るお好み焼き屋さんです。横浜ランドマーク店ではお好み焼きだけではなくナポリタンを提供しています。今回は特別に家でもできる、ナポリタンの作り方を教えてもらいました。ナポリタンとはトマトソースやトマトケチャップでいためるパスタで、いためていないトマトソースとナポリタンとの大きな違いはそこです。何が違うのか私も知らなかったのが納得しました。

私たちが作る前に、店長さんが目の前で、まずお手本として焼きそばを作ってくれました。これを見て、鉄板から煙がすく出てくるので熱そうで、自分はいためることも出来ないんじゃないかと思いましたが、店員さんがていねいに「てこ」の持ち方やいため方を教えてくれて、初めてでも結構上手に作る事ができました。私は実は今まであまりナポリタンは好きではなかったんだけど、ものすごく美味しく食べることができました。ナポリタンが苦手な人もぜひ横浜ランドマーク店の「ぼてちゅう」に行ってみてナポリタンを食べてみてください！(2021.10.24)



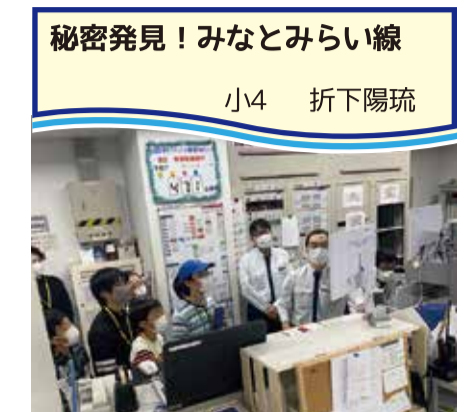
横浜では現代アート、ダンス、音楽の3つの芸術フェスティバルが毎年順番に開催されています。今回はダンスのフェスティバル Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021 (以下DDDと略)を取材しました。ダンスで横浜じゅうを盛り上げよう！という想いでスタートし、①プロダンサーの有料公演②市民も参加できる無料ステージ③子ども対象のダンスのワークショップを行っています。その中で特に注目したいプログラムが②の観覧無料のオールジャンルダンスステージ「横浜ダンスパラダイス」です。横浜の街じゅうで様々な方がダンスを踊っているため、その活気に「ここは本当に日本なの？」と一瞬錯覚に陥りますが、ダンスを肌で感じるうちにその雰囲気は飲まれ、自分も不思議とワクワクしてきます。いろいろなジャンルのダンスを目の前で見ることは驚きと発見の連続であり、3ヶ月にわたって無料で見られるのは本当に素晴らしいです。(2021.10.16)

そんなダンスパラダイスの立役者とも言えるのが、企画アドバイザーの近藤良平さんです。近藤さんはダンサーや振付師のお仕事をされていて、DDDのオリジナルダンス「レッド・シューズ」の振り付けも担当しています。近藤さんは大学の時に友達に誘われて、という不純な動機でダンスを始めたそうですが、体を使って自分を表現することの楽しさを知りダンスにのめり込んでいきました。

近藤さんがたびたび口にしていたのが「ジャンルの垣根を越えて」ということ。横浜ダンスパラダイスも年齢、ジェンダー、国籍、障害の有無やプロ・アマを越えたオールジャンルのダンスステージとして開催されています。多様なジャンルのダンスを尊重しつつ、決して踊る人を制限しない。そのような考え方によって、どんな人でも簡単に楽しめるダンス「レッド・シューズ」が生まれたのです。取材したこの日まで、私はダンスがこれほどまで清々しいものだ知りませんでした。街とダンスが自然に融合している景色は新鮮で、このDDDは横浜の生きる遺産だと思います。取材ではダンスを見るだけだったので、自分も久々に踊りたくなりました。



ダンスパラダイスに出演した都筑育成チアチームにもインタビューしました。コロナ禍でマスクをつけて練習するのは大変だった。お客さんが楽しさが届けられるよう、きついポーズのときも笑顔で演技するように心がけていると話してくれました。彼女たちのダンスは躍動感があり本当に楽しそうで見ている私たちも幸せになりました。(2021.10.26)



みなとみらい線は平成16年2月に開業しました。路線の距離は4.1キロと他の路線に比べ短いですが、横浜の重要な交通として利用されています。

電車はコンピューター上で、現在地やどれくらいで到着するか確認することができます。みなとみらい線の駅は6駅で、横浜、新高島、みなとみらい、馬車道、日本大通り、元町・中華街の順に並んでいて、横浜駅を除いてそれぞれにコンセプトがあり、設計者も違います。取材をした事務所のある、元町・中華街駅は天井が高く開放感がありました。壁に横浜の昔の街並みや人物の写真があり、歩いているだけでも楽しむことができました。みなとみらい駅はクイーンズスクエアと駅が一体化し、ホームには街灯のようなデザインの柱があって、地下にいながら地上にいるように見えます。大きな吹き抜けがあり、クイーンズスクエアに続いています。長いエレベーターの上から駅のホームが見えます。地下鉄を上から見ることができるとはとてもめずらしいそうです。また、みなとみらい線には「えむえむさん」というマスコットキャラクターがいます。可愛い海鳥のキャラクターです。取材先と一緒にえむえむさんと記念撮影をしました。(2021.10.26)



MMジュニア編集局を応援しています。

MMテラス

横浜高速鉄道株式会社

神奈川大学経営学部

美味しさと安全をお届けする 食材宅配生協

サステイナブルなひと、生活クラブ

0120-371-902

国産 減農薬 無添加

厚生労働大臣指定/専修学校 学校法人 みなとみらい学園

横浜歯科医療専門学校

Yokohama College of Dental Care and Health Science

歯科技工士学科・歯科衛生士学科

資料請求・オープンキャンパスのお申込・お問合せ等は、右記コードよりお願いいたします。

「ぼてちゅう」横浜ランドマーク店

Tel. 045-222-5122

LINE公式アカウントに登録すると

今すぐ使える300円OFFクーポンプレゼント!

ネットご予約、承っております。

わくわくどきどきをつくる

ルーデンス株式会社

MMジュニア編集局を応援しています。

www.ludens.be